恋の若竹

三編中

208
特
9
703

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

208
9
703

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

深契情話 戀の若竹三編巻之中

江戸 十返舎一九編次

第十五套

在斯て竹次郎が。於角が送る報書をお若が見て。是逢へて。彼の徒輩が。兼相より。偉言為て。心ばるねが。一旦八陳ドてかくせ〜が。此夜を突付られて。今更まぢ入面目なく。ひさひのあせを。こまをかくし〜あが。ふるは遠ひ。今くあれが。濡り。腹をたりのへもうとるど。

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

ぞうも。はなをくいたゝかと。なんぐさられど。なんぐさかと
ゐげるの。ゝ娘よかり。合てと。さげまるまるのがたぐ
かゝさに。まゞかゝるのがゆちたり。濡りどうぞ。れう。
ちく。堪忍しくらさせん。かへてのみがこゝてのるに入
ずれも。初れる事でれるゐうそうしてこれば。この
外ゆも。まぐいくらゆ。をるぐらけぐ。濡ぬだりして
ゐるさぐらう。はいでゆ外のもおそれる。それさん
ゆれ。ちくちくいゆ。沢でもるす。外よ。何があるものう。かへ。ゆれ

るのへ。まるれでいよく。落ぢ。ゆ情とらゆ。の。大切る人の娘と
るぐさんでゆまるさん。肝。ゆれ。ゆるのいやぐのと
さういゆ。不実るんでれ。ゆるぐらがるれ。牧さういやく
るぐらまる。沢ぐ。実ゆ。情ゆあるのぢやゆるの。そまきへ
男の。ゆとういうちゆ。ゆめくさんいまゆよりゆどる不実
ものぐ。そしてぐう。まれでいのぐかへどうといりく
そばの。イ。ゆるよ。ゆるものるゆ。まゆ。ゆふるさいまり。
ゆくくいゆくくが。自分のイ。ゆとくゆるけゆやゆ

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

ゑらるゝい。ゆめ。さう。むづかしくいふて。こまらせて
見ずとよりのゝごらう。かくしてのれどこそまでもあまとが
濡り。見ようとしたりとでも。石実らしく。ふるまるゝ
ゑれ人ゝら。今度のゝれかくれ「そりやア。あの人の就度と
見たがるく。ゑゝてくいぢめる筋いるいろ。ようョぶう
ともまアあまへの表ふみろくあるん。そのあろさんど
とく。ちゝませられく。新ちゝみもうもく。初まる
ゆる筋でい。さそこまゝてゑるさらゝ。又そんな

為情のゝとゝ初ゝずにゐれて。今さゝもゝとゝ実
ゝるされゝゝ。どんゝふまア悔ゝゝゝ。ゝゝゝ自
分のゝとゝもゝ。そのゝとゝがからいさゝぶとゝゝて案
じるゝる。夫ぶゝゝお気ゝんのゝとゝもゝくお結ゝそゝ。
夫婦にゝられる筋ゝゝゝゝ。又人よかくゝと
後のゝとゝ。ゝゝされる筋ゝゝゝさゝゝて第入ゝあに
筋の法ゝゝゝゝ工夫よゝるきのまゝ。義理をなぐ
さんで乗ゝゝとゝ遠ひまゝゝる。ゑとまゝゝと

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

あのふのるすも先刻みなとアんるとまぐる。あらまうしい
ぞうさされど。先ず一人腹のるす。郭ごさちのんるもめて
こらうどまう。どうぞあまへさんが善変しさ立まと
はけて。人は雑義もさせず。四角分も不実のもと
ぞうれぬまうたさへしておらんるさりや。それでさうの
郭ひどとう。まアどうあでも志くおるさんまう。ちう
とも嫉妬をやるぬうこサアくお差さんへさを業ど
ておまへさんと行くお出ざらう。おくいうく安心さて。

どうとも心事をはけておあげる「あやまうさう」。
さうあへんがおうまうくいうくられるわど。帯屋の長
ちうでいるのが面ぐかぶりうん。まアお差のるも
不実ぐるのまうに。安心さる工夫まるから。
かるうず。腹とうくくまてとまるぜ「ちうへ
たぬといのるさサアまアおくおかへり」トこうのうんく
きびうこうの件は帯ちもぐくと心事しく長うしぐ。
かく祝をまくいのふ。くどくいひうのまれがる。

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

性なるものの湯とおぼしかくまとおもいれん。あるひは
るも丸く生まれて切角の角なくおかしせくお角なくなんと
おちはのせんものとんなるよ夫し。なるよ間ひこまみ
善へつうち点ぢやさく家ぬみ久りくる。
○這外次第八一個の男人みく。寿者の
出るとわど。毛と点て頭脳ふ浦く
潤毛とくとも。如氏男ふ人みるみ。世とふる
かくのめ。されども言といふるを。重ふ知ら

わぢ人よあらず。毛と指く男ふるたりのと
男の人さ人。毛のふる男毛ふ言ふるかの
枯木寒ふ巻ふ侍るとぞ。性の毛とふいふべら
ず。呂ふと言ふと言ふの味ひ性の毛と。浦く知ら
知ふとぞ。夫ふ迷ひ溺るべらず。若好法
師も女ふたやを毛ふず必ふきんこそ。あらま
ほしたこざるれふいふり。よく広さひと知る
ものと生の毛とふる人ふ。真の男気とも

まうしたべし。初らだれあるべうもざる男女の情ゆ。
ほく溺もてく身を亡ぼす。人を助くべき人多も。
用ゆるものの多れば。却て人を害ぼす因ど。
鳴呼。初めおるべうもず。又始まべれみべうべ

第十六套

外次郎ハそそくよ。お角がりことを立かへりしを。
ふ刻の後なひるうを巳。けと紀例の使宮ゑ入りて。
吹くに藤の人ごゑのいとかーげゆ聞くを紀ハ

疑もん思の業ごられて。何ゆゆめとまぐさまを出。
震震の雨夕あけく。十ちうがこうぬ。
折角奉ゑうら世話とまく異る風流といやの
おうのと系作る。藤よ異昇といひ。第分弄といひ。
何ひうぬけ月のゑの男とのゆ。それと彼先ぬう
もあとのゆ。生しを垂てハ使系の方。一ちりひみ
数しく方まのハ。めやるうぬ。とあるゆ。
「まアあるる。さう一途よ方まやるりのでハ
ト左らちぐ系ふ
ちまを毋おやが

ございません。随分ふるまうてくれるが。実に
のことまちがせました。そのうへぐきまいませずに。穀をとも
ぞうとものうさいまし。父「るこいつ実に
入るものう。釈の袖と背くかとい。穀さみやろうぬ
母「イエ是ゆいちんと親もあるまをやうまをぐござん
まをあるこのびぞんじるのいれど。まこと子細を
あるまをとうまアうさいまし。トやうく
ふるまうとうかきね「お陳のとおくトそうとの家外ちう
のあるこのこと

男を「おこのさんるんぞう縁やうまをざろんざへト
ふるまうとうね「いろうう大こんぐございまをる。まふ
つふく。是非おあひるさうみやうるぬるがござい
弁から。濡よこうと入まうてうさんます。「アイ。
ちやうちさ「そーく例の処うでいらけません。
ひ方の植込のうう。釈の先をたりへまうつて。ア
お稲荷さまのれね。あのあのこの古義のうをぬけく。
実当りのホさん去ようの戸のあるこうが。お嬢さま

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

りの仮宅ぐ。あのざしきよお初どんが居くね
まった。あの戸を明くあの紀まをとうとう。とお這入
るさのまー。そーそるお振さまへお二階ぐござの弁
「それい大へんさ」「ようござのまをかみ。ささーが初
のそばふ部くまったて居りまをとう。きっと入らり
まやいまー」「ヨレてかってふ仲ひとの者ぐ芝へお美ぐ好ふ
わどるくまのぐあるよ芝へぐお美ぐ好ふ
ありーーとるあらかれまを男ふ先刻のあ駅のたち
立。こふ部家もとりかへて。二階よ寝さをとるる。

用ん。ど堅固よーくも。淀よりのみちりてのひまへちく
と。姿人のひまあるぐでく。まさ導きく引入をる
まあり。嗚呼すを若尺摩の世のるうひ。是をるに
つけくも。さぞやあるまへ新義ーそ。んがそくおもいや
せんと。ひとりんよ新月のつをと考へるぐよ紹束の。
俳の戸がをあとづるれが。内ーう冥くあるが案内に。
二階へよーう男びいる。あるるのあるのひのるのてんるーうふびんさと
るのどくさぐ外のうちあんぐかげ
おのいるたい。あるあさん。ひとちんがくの用が出来る。

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

夫母ゑよ。ゑれるかんさが。笑けが大ぜよ。むづかしい筋。
こゝふさのゝのみのやうを。どうも案じられるが。
まアどういふ訳ぞ。トいどもさくみいらゐもせず。牛へどうまろ
のぞろるわどもつゝさんやるめうよ。知られてゐさぞや
こまろさるのごらう。又新しを助蔵さんもとりかへ
させて。ゑまぐいつものの処へ。別よ恒板をまるまろ
やうまぞ。まアどうまろとうろうろうこゝへどうでも
別へいとゐぬが。大ぜるゆる出世まゝのおゑと。流りのみ

まくいどうもまゝぬ。ろん。とうよの男案を法ける
みやアるゝぬ。よアどうまろう。トいふてもさくみあいそず
かぞゝ牛てゐる「今屋ん。ドを世ぬのゝまゝてがいやるのとこゝる。
まゝゝあんぢいでもつるいのゝゝるゝみ。ても氣のどく
ぞうかゝり。まゝせう。トまあるをとゝゝゝてこゝろとだろう。彼を
ゝふ。あゝ。蔵男ぶ法教と。これが不極と牛法帝も。
まゝるまゝく見ふうゝ。後ぞふくゝのいそず。さうろ
むのく孫ゝ。ゝゝぶ毎とあげ「牛法帝さん。何もよう

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

でございますけれどたびひとろ新ようるるゆがでぶんまるもがり。あるえ。おるえ。お角さんといへお方を宮ためくでぶんじくおのでるさんまもせうるトいそれて外ひろびろ白先ちくお角にいぶあられてこりくちろあとるまるば

外そまのぶん新さんよお角といへ名がいんちろもありまもが。ぶうーくまるその名とば新くあのでぶトこれがまちがひめくあ夜をあるもあるこーくるようるあらりれーとまとれまるねがるるこけかくーそみるこ

月「それかいくこりあっても。たびおくぶやまのへぶまへさんのおかへ四がりるるこるお角さんのるでぶございまんな

外そハア新まへちろこ。揚場のお角といへ義兵衛のるぶぶらろう。ぶんのあのろがるれ。ぶでも意でもいろう。ぶんみも婚くもかるめくもありやせん。おりるるゆとどこのものが行とさーいるのぶ。だろろちいるゆよぶるさまるくぶとちるさんるろ「さあうるゆがるゆめも

新「ぶへ殺ーませんが先へぶんでぶございまるへトさーいぶれいの外ぶ新ハ自ふとろこへれが自分よりお角がのこへ。送るべぶ報書るれが。胸にぶろくろろ参ぶ。

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

代おり角とおもへの夜のまちぐひの　原宗盛の身ぬり
るれ三ん目のちの巻よろこ　
ゆき。こそ〳〵　ぬりこるゆるりけんとぶくどさあらぬ
たんよりくるー　牛るんのたれ　ぶやうどんよかのるの
ぶったるんもれんるとトいろぶ　引きたれが「いるく　帰りるぶら
さあうでれ　ぶぶれ　ませんトいひつあまあ　あけそらへきるれ
るるりさ　おるりのるれへ。それ　びく　のれおそれ入ませれどる。そまだれ　ぶれ　お娘さるを
おるぶーるさるとヤまの。あるさおかくーるるさん

弁けれど。お角がこれだんぐちんとでおりる
やうもど。きいてもとりまーう。その外へふるの　弦
遠ひ。吏うら　きよるるーでもがお殺ーて。まア
お角とやうかるへられたれ。どうもお娘さるの一
ぶん　分のたくぬ　沢ぐぐぶぶれ　ませうう。のうあるさん
れ「アイサ。あるれ。るいるぶとぶるるかど
めくお　まれるるるるおがーめーでも。され　まり
ません。ふく　密とあくぞんどと張ませるる。れも

ぶいぶんもいろもの。どうでもよろしうございます。
そもそども。まア此せろの大へんたのお身だろう。
かういへばかりどもあーてもおるまいてよびよあげても
おいでなさらず。よんどころないのいそがしいのと。
おろかなさろこと。よく性はけばそのお角がをうへだかり。
まいあちこちつれこもるるもの。此節かう
いへまぐぐさへるるれば。お娘さまもこのさまの。
そばくらもよでんあるそんるるかいこーま

せんかる。あるさも人さまもあるれさまもあるとお
通人さまとゝあろまあるられるあるさまおちちと
ちちくちされべようござの糸をどゝそりやア
実さまさうでござりまるまるとゝひてたへ「ほてさくーかを
ちのおろ
まぐぐぜんせぬつもりでとうまーさられど。今弥ちと
細く出くるされべよりのられど。あんまりあげくる
ものごろう。つい人のはちをめかるとーあ。まれ
いまさろあるさもるるがぐ。まアこのやアまぐるるん義

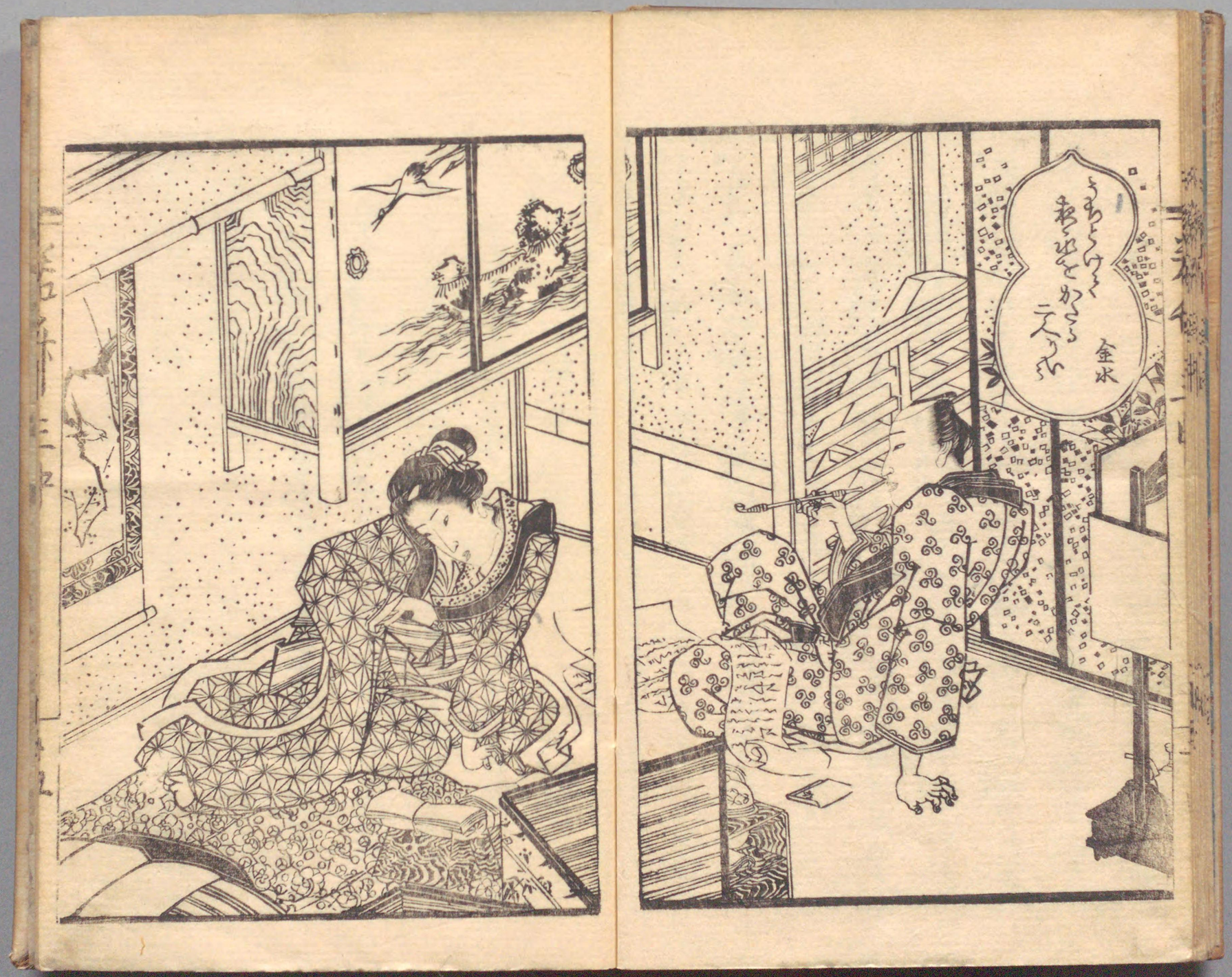
国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

いて　まるで。どんるぐ　ございませう。長歌さみい
よくもぞんじるいれど。四ちんぞうさるに　初られ
さものごろう。さて　も幕引とある　ろうも　ま
せんかるで。そ　てあるさ　柳橋　あるうの　歌舞ぞい。
女房も　同じ　るぐ　ございまるされる。あんるものに
だまさるさく。うたくとぬ　ていろうちやるといのい
ちまう　ません　それも　ね。るんざるが　るるる
けりや　まり　よい　まうるものざれど。俗とりるも　ま

えんるぐ　吹ぐよ　あいぢめヤ　さくさく。ちるさもるん
るざ。とんやの　四そうぐ　ぐ　一ごろる。そるそ　そそ
ふちちゃ。ひめ人ぢゃ　るー　どうもぞんぐく
さて　ぐ　けんちぐひ。今さら　一ぐんもありません。
コレ　あのさんどうを　懸巻　ちくあられ。あくるちよまで
猫　紙　とかけく。まるに　の毒ざのう　伯母　あるさ
るんぐも　かねく　見　侍のう人　るけまぐ。ちんるるん
ぢ　ませんから。ぎいぶんぐうでもさて　どもの

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用



国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

方へ参うでぶつの弁。ふうん人どの申るうき目に
あひまして。一うるうるうずお目とかけて頂いる
お嬢さまのおあふさんるるとうるうべのうおるる
どん。まあ「あい。さうさもさ。まもうもいいるあい
ません。アき「まア兵衛人。どう兵衛とあたけうさい外
「どうとうて。先あうてユまもつうわんがのう初
ぞんあんい年嬢さま。ことに若男人ぞ。どうぞも
考へくんわんるうる「ふるうぞうく。今さうお

るうと。たんとのことをるまうく。あとでおづか
ちのとて。ちゃのちまうを射申もるのが。お嬢
さん。ちうさん。おめくるち。ぶが完初うちるるぶ
うう。兵衛とあ若してぞうもおーるへどう
さもるるうるるうぶ。緒うくちめんをるのこの
ちわんいるる。るんとうちくあげくおれるるへ
ことさうーの兵衛あい。ひとうるうるるが。兵衛の
おがりーいどうぞうか「どうでもいやとか

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

いたぬうち。工夫をほどけておくまで。ちっとも貯たい
せぬうち。ちゝさまうるうらがやまませうが。めゝ先れ
るがうあるこゝ。四郎殿の金銭さまうぐ。あるこゝ
四郎殿とやとまうる。娘ぐいくつちやい弁子。
まうさ。ちゝさまうるうらば。どうぞお娘さまと連て一こゝ
お逃るまうて。ちさのまゝ。るゝも側うさうゝ
もうけも。るのまうるめく。まうゝ。弟に工夫いでさい
ません。夫ゝ。お角と。まうゝ。お娘さまよりも

おゝ。ちゝがそばうゝ。娘奴とちやさざけまで。
るめさお二人ともに。お娘でおいでるるるゝ
るさゝがくねどくゝ。ちまた。サアくまときあて。
その四郎殿にるるのまいまゝ。ちくゝ奴ゝ。争論い
るさゝがお男ひ。まぐくゝ。長奴るゝ。吉原も
ちら方の方ゆも。いくゝも。お別屋ぐあるゝる。ぐし
きうゆ。初れるのだりをやくとゝゝ。まア。娘いとりゝ
るのさ。が。ぐく。おみよ。たびく。ねんいくゝさるも

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

あるくらい。さくらーの仕業か。お二人とりめ高度あのや
でんるの。又和中仕方がぢぶいません。あるるらしてぢぶん
るさいまーのりう言ともいまーでのおられません。まことを大人
が出来ません。音しい音やこの乃あのるうがようぢぶの和。そして
あと後のこれ和の人あかけません。伝のもも一人でかぶって。私が
ひきうまくまひ和。又まく和ると所のいら。まりませう。まアお
ぢさまへらく。あるることは仕合るこのまートらってあさまぶらの
恋の若竹 三編 之 中 終

秘方

恋若竹功能書

小半劑入
代百二十四銅

一 第一かあいろ[illegible]はみひくみひ[illegible]
一 しのひ[illegible]れ[illegible]
一 のの[illegible]
一 かく[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [

代の[illegible]

本家　江戸両國横山町三丁目　大坂屋半藏

京都賣弘所　鞘師通東洞院東ヘ入　大和屋彦右衛門

大坂賣弘所　心齋橋筋博労町　河内屋重太郎

取次

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋若竹 九

鮮青養童丸　壹包代百銅

小兒たゞ一通の妙薬　半包代五十銅

御藥調合本家　東府隱醫　岡田三折製

賣弘所　江戸両國横山町二丁目　大坂屋半藏

取次　[illegible]

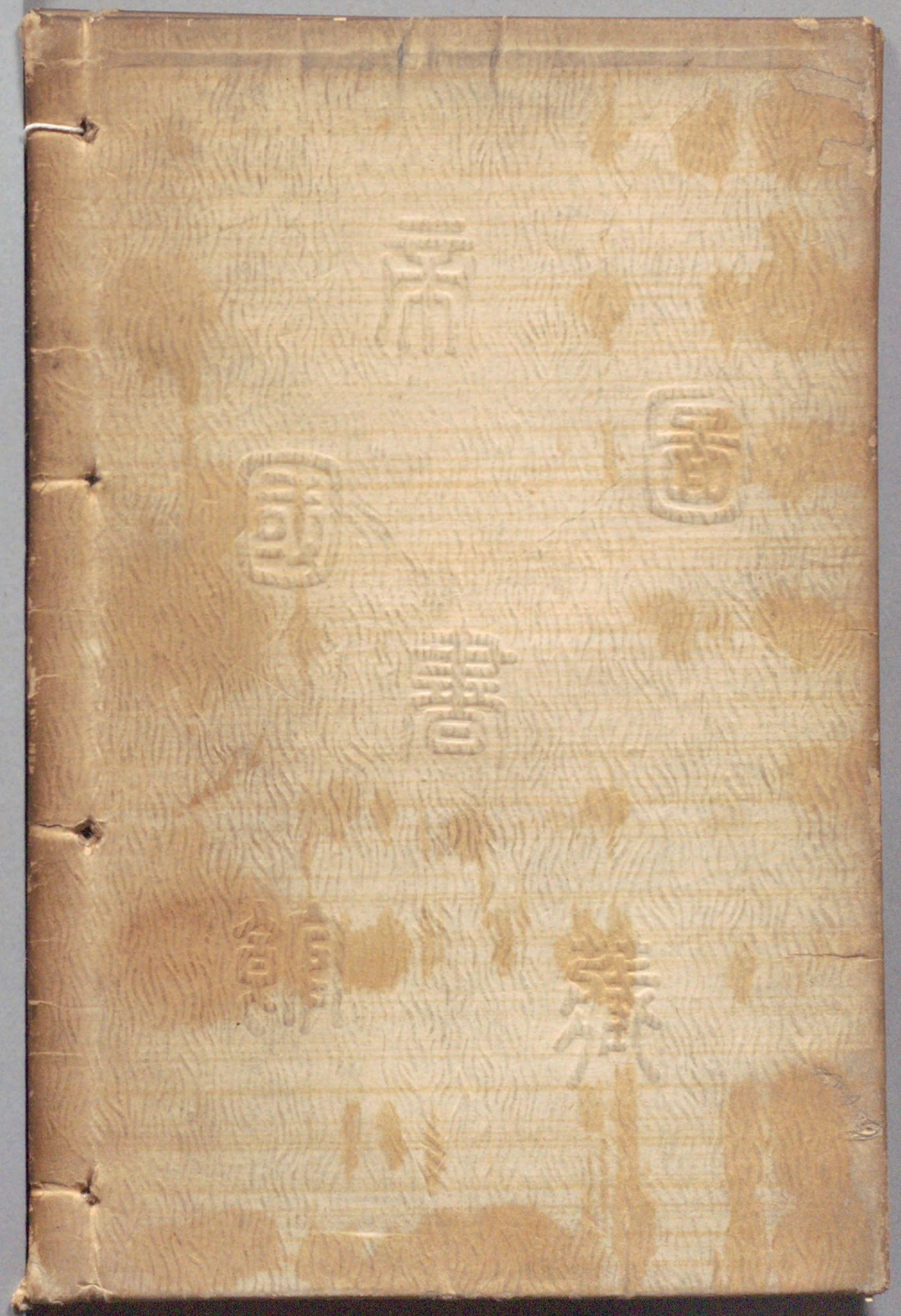
国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

208
9
703

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用



国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用